

# 平成 15 年度 事業報告書

平成 15 年度	事業報告
同	収支計算書
同	貸借対照表
同	総括表
同	財産目録
同	専門部会収支報告書
平成 16 年度	事業計画
同	収支予算書
平成 15 年度	監査報告
平成 15 年度	役員および委員等

社団法人 日本油化学会

## 平成 15 年度事業報告

### 1 会員状況

#### 1.1 法人会員および団体会員

級 種	平成 15 年度末	平成 14 年度末	増 減
1 級	13 社	13 社	0 社
2 級	8 社	8 社	0 社
3 級	18 社	19 社	- 1 社
4 級	26 社	26 社	0 社
5 級	90 社	94 社	- 4 社
計	155 社	160 社	- 5 社

#### 1.2 個人会員

種 別	平成 15 年度末	平成 14 年度末	増 減
普通会員	1686 名	1738 名	- 52 名
学生会員	82 名	69 名	+ 13 名
計	1768 名	1807 名	- 39 名

#### 1.3 名誉会員 ( 15 名 )

阿河 利男 阿部 芳郎 大城 芳樹 荻野 圭三 金田 尚志 北原 文雄 櫻井 洸  
佐々木恒孝 高木 徹 豊口 満 橋本哲太郎 早野 茂夫 松本 太郎 森 昭  
渡辺昭一郎

#### 1.4 会費収入の推移

## 2 会務

### 2.1 総会

第 49 回通常総会を、平成 15 年 3 月 31 日、油脂工業会館で開催した。委任状出席を含めて 112 名の代議員の出席を得て議案を審議した。14 年度事業報告、監査報告、15 年度事業計画、平成 15 年度役員を選任および名誉会員の推戴等が審議され、いずれも原案通り承認・可決された。

引き続き表彰式が執り行われ、つぎの各氏が表彰された。

名誉会員に金田 尚志氏が推戴された。

日本油化学会功績賞が元日清製油(株)・日本油脂検査協会 安田耕作氏に贈呈された。

平成 14 年度日本油化学会賞等が次の各氏に贈呈された。

- |      |            |         |
|------|------------|---------|
| ・学会賞 | 東京理科大学理工学部 | 阿部 正彦 氏 |
|      | 滋賀大学大学教育学部 | 杉田 陸海 氏 |
| ・進歩賞 | 産業技術総合研究所  | 北本 大 氏  |

総会に引き続き、懇親会がルビーホールで開催され、70 余名が出席した。

### 2.2 理事会

定例理事会は 5 回開催し、平成 14 年度一般会計・特別会計決算案および平成 15 年度同予算案、平成 15 年度会長、副会長および常務理事の選任、運営委員、各業務委員、専門部会長、支部長等の選任、日本油化学会名誉会員および日本油化学会功績賞ならびに日本油化学会賞等の選考、次々年度年会開催地の選定および実行委員長等の選任等、重要案件について審議し、決定した。

出席理事 延 71 名、委任状提出理事 延 18 名、出席監事 延 6 名

### 2.3 運営委員会および業務委員会等開催状況

運営委員会 6 回、運営会議 3 回、名誉会員等との運営懇談会 1 回 をそれぞれ開催した。

業務委員会等は延 49 回開催され、各委員会の開催数は次のとおりである。

総務、定款細則改訂委員会	6 回	役員等候補者推薦委員会	3 回
財務委員会	1 回	学会賞選考委員会	2 回
企画・部会統括委員会	5 回	功績賞推薦委員会	2 回
企画・部会統括委員会全体会議	2 回	規格試験法委員会(含小委員会)	12 回
企画・部会統括委員会WG	2 回	若手の会委員会	2 回
編集委員会	7 回	マスターズクラブ幹事会	3 回
JS2004 実行委員会	2 回		

総務委員会は、運営改革に関する答申に基づき、関連規則の見直しを行うと共にホームページ委員会の設立について提案を行った。定款・細則改訂委員会は、総務委員会の検討を受けて、細則および諸規程の改訂ならびに内規の制定を行った。財務委員会は、会員増強に協力するなど財政改善に務めた。企画・部会統括委員会は、専門部会の新体制による活動の推進、本部企画事業の推進、会員増強委員による会員増強の推進、ワーキンググループによる新規事業企画の検討等を中心に活動した。役員候補者推薦委員会は、次期会長候補者の選出方法を制定し、初めて会員による投票で次期会長候補となる者を選出した。規格試験法委員会は、基準油脂分析試験法の改訂を行い、「2003 年版」を 10 月に刊行した。大変好評であり、財政への寄与も大きい。重合物小委員会は、6 回開催し、精力的に検討を進めている。マスターズクラブは、関東地区では年 4 回の談話会が定着したが(本年は 1 泊の談話会を実施)、東海地区でも立ち上げることができた。

### 3 事業報告

#### 3.1 本部事業報告

本部事業は、企画・部会統括委員会を中心に活動し、本年度より界面活性剤評価・試験法セミナーをあらたに追加し、セミナーを5回開催した。

・フレッシュマンセミナー(油脂)	参加者数	114名
・フレッシュマンセミナー(界面)	参加者数	118名
・基準油脂分析試験法セミナー	参加者数	55名
・界面アトランスセミナー	参加者数	55名
・界面活性剤評価・試験法セミナー	参加者数	57名

#### 3.2 支部活動報告

##### (1) 支部委員会等の開催

- ・関東支部 常任幹事会3, 幹事会1, 事業企画委員会3
- ・東海支部 常任幹事会2, 役員会1, その他委員会1
- ・関西支部 常任幹事会5, 幹事会3

##### (2) 支部による講演会, セミナー等の行事開催

支部による講演会, セミナー, 交流会等の行事は、延16回開催し、参加者数は延798名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延63名であった。

・関東支部	開催回数	5回	参加者数	244名
・東海支部	開催回数	3回	参加者数	166名
・関西支部	開催回数	7回	参加者数	388名

#### 3.3 専門部会, 若手の会, マスターズクラブ活動報告

講演会, セミナー, 談話会等の行事は、延21回開催し、参加者数は延972名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延59名であった。

・専門部会	開催回数	15回	参加者数	808名
・若手の会	開催回数	2回	参加者数	91名
・マスターズクラブ	開催回数	4回	参加者数	73名

#### 3.4 日本油化学会誌発行状況

##### (1) 「Journal of Oleo Science」誌 第52巻 第1号~12号 総ページ数 766ページ

オリジナル論文中心の英文学術雑誌として発行した。2003年の英文化率は79%。

掲載内容	報文・ノート・速報	英文	70件	520ページ
		邦文	15件	108ページ
	総説	英文	0件	0ページ

##### (2) 「オレオサイエンス」誌 第3巻 第1号~12号 総ページ数 1108ページ

学術的啓発と情報を中心とした情報誌として発行した。

掲載内容	総合論文・総説・入門講座	30件	265ページ
	研究文献抄録	333件	66ページ
	国際油脂情報	333件	68ページ
	会務・会告等		374ページ
	広告	104件	68ページ

### 3.5 第42回日本油化学会年会

高木 克彦実行委員長を中心に実行委員会を組織し、東海支部の協力のもとに準備、開催した。本年会では、特別講演として藤島 昭氏(神奈川科学技術アカデミー)の講演や受賞講演等を行ったほか、専門部会主催によるシンポジウムおよびランチョンセミナーや初めてイングリッシュセッションを開催するなど、盛沢山の行事を盛況裡に終えることができた。ヤングフェロー賞は、高柳真理子、久保 勘二、愛澤 秀信の3氏を選考し、懇親会においてそれぞれ表彰した。また、エディター賞、オレオサイエンス賞等の受賞者についても表彰した。

期 日 : 平成15年9月18日(木)~20日(土)

会 場 : 名古屋国際会議場

内 容 :

参加者総数	468名
講演件数	202件
・特別講演	1件
・受賞講演	3件
・一般講演	134件
・ポスター発表	48件
・イングリッシュセッション (招待講演)	3件
・ (一般講演)	6件
・ (ポスター)	7件
・シンポジウム	12件
・ランチョンセミナー	2件
・若手の会講演	1件
・油脂工業会館油脂優秀論文賞受賞講演	6件

懇親会: 平成15年9月18日(木)

名古屋国際会議場内「カスケード」

第12回 JOCs オイルカップスポーツ大会

・テニス: 錦屋内テニスコート	参加者	7名
・ボーリング: ヘラルドボウル	参加者	32名

### 3.6 ILSI 共催シンポジウム(JOCs-ILSI Japan Joint Symposium 2003)

島崎弘幸実行委員長のもとに、6月13-14日、昭和大学上條講堂で、「油脂で創る健康」シンポジウムを開催した。国内外から招聘した16名が、シンポジウム(3題)、特別講演(4題)、ランチョン等で講演したほか、ポスター発表(14件)、展示会(5社)も加わり、参加者数は190名で、盛況であった。

ILSI Japan とは今後も2年ごとにシンポジウム等を共催することで合意している。

### 3.7 JOCs-AOCS ジョイント・シンポジウム JS2004 (Joint Symposium on Biosciences)

和田 俊実行委員長のもとに、AOCS 側の C.T.HOU 実行委員長とともに準備が進められ、オハイオ州シンシナティ市で、2004年5月10日(AOCS 年会初日)に開催することになった。“Joint Symposium on Biosciences”を共通テーマとし、AOCS の要望により、当初計画の4セッションから9セッションに拡大されることになった。また、ジョイント・シンポジウムが開催される10日に、琴、太鼓、剣道等の日本の伝統を披露する「Japan Night」を開催し、相互の交流をはかることになった。